

## 1 ビジョン策定の趣旨

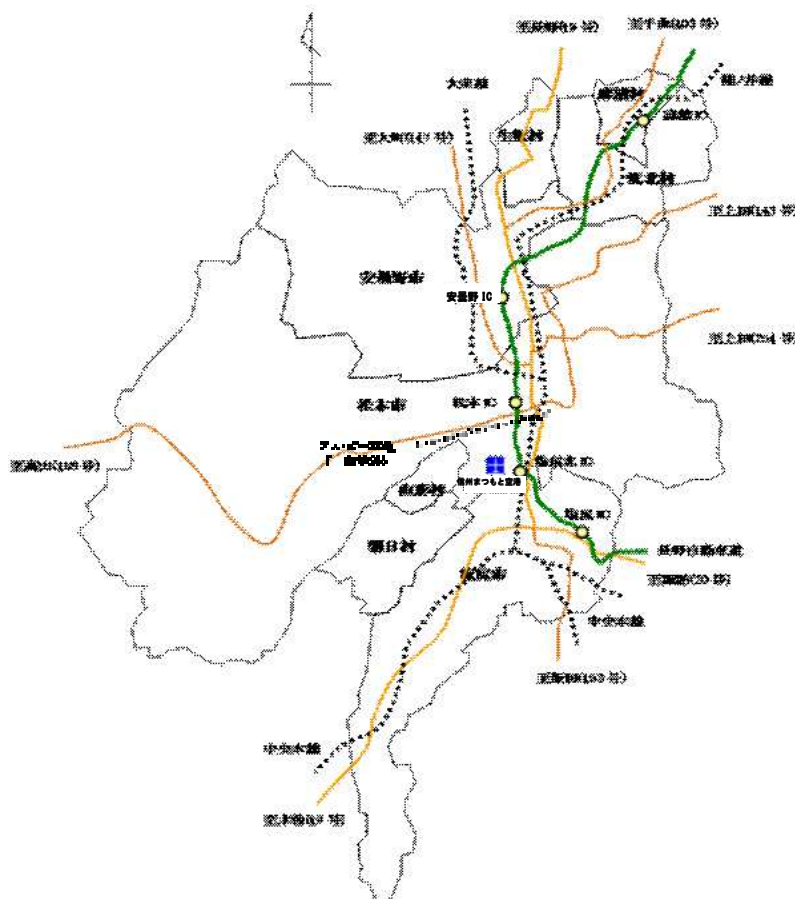
この「松本地域ビジョン」は、松本地域が持つ特性を踏まえ、地域が抱える広域的な課題を整理した上で、地域の目指す姿、地域の魅力や個性を活かした施策及び地域課題を解決するための施策を示したものです。

なお、本ビジョンの期間については、平成 25 年度を初年度とし、終期については特に定めませんが、今後、社会情勢や個々のテーマを取り巻く状況の変化があった場合など、これらを的確に反映するため、必要に応じて見直しを行うものとします。

## 2 松本地域の特性

### ◆ 地 勢 ～県の中央部に位置し、美しい山々に囲まれています。～

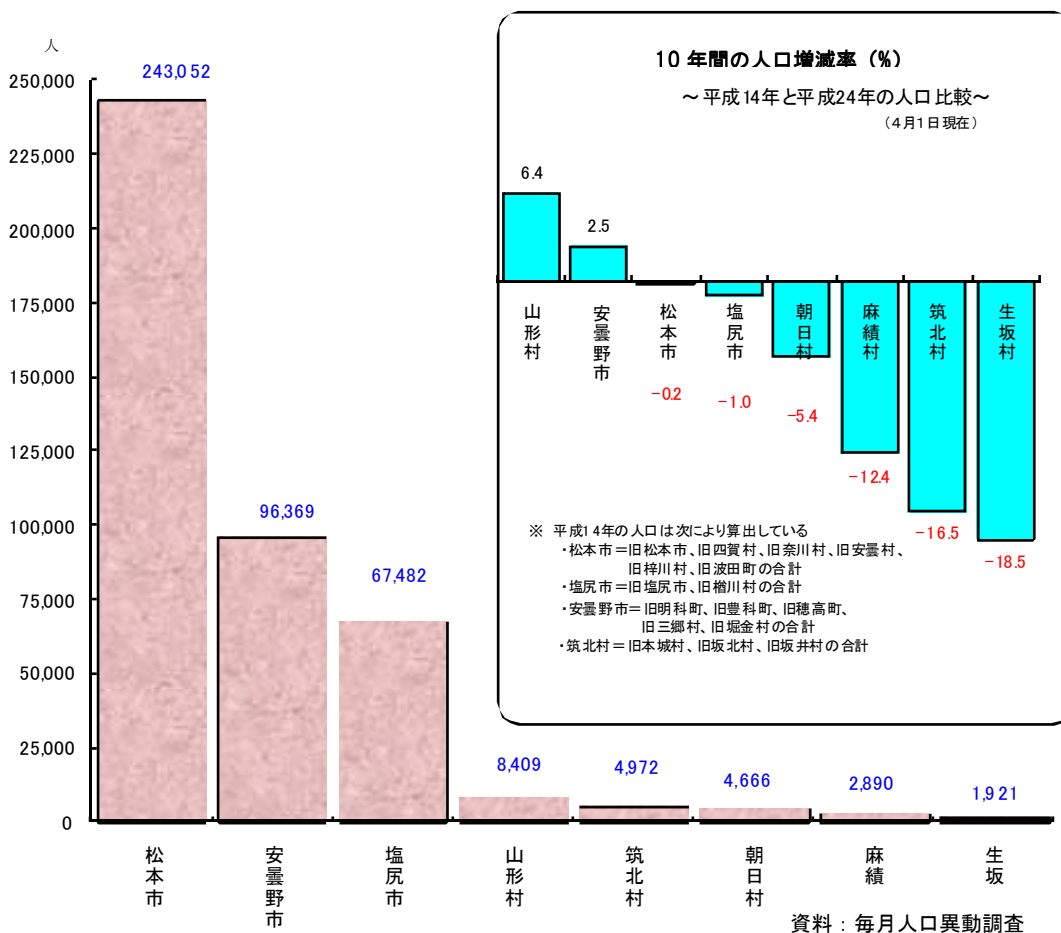
- ・ 松本地域は、長野県の中央部に位置し、日本の屋根と呼ばれる北アルプスと八ヶ岳中信高原に囲まれた盆地を中心に、3市5村からなっています。
- ・ 総面積は1,869.14km<sup>2</sup>で県全体の13.8%を占め、うち森林は1,417.73km<sup>2</sup>で全体の75.8%、耕地面積は204.60 km<sup>2</sup>で全体の10.9%となっています。



◆ 人 口 ～43万人が暮らしています。～

- ・ 松本地域の人口は、平成24年4月1日現在429,761人で、県総人口の20.1%を占めています。松本市243,052人から生坂村1,921人まで、人口規模が異なる市村から構成されており、都市部と農山村部が持つそれぞれの魅力を兼ね備えた地域であるといえます。
- ・ 人口の推移を見ると、安曇野市や山形村で増加し、筑北地域などで減少する傾向にあります。
- ・ 高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は県全体と同様に上昇傾向にあります。生産年齢人口（15～64歳）の割合は61.0%と県内で最も大きく、県内では比較的若年層の人口割合が高い地域といえます。

管内市町村別人口



◆ 気 候 ～四季の変化に富んだ内陸性気候となっています。～

- ・ 松本地域は、位置・地形から顕著な内陸性気候の特性を有しており、気温の日較差は全国屈指で、寒暖の差が大きく、四季の変化に富んでいます。
- ・ 海から遠く、山々に囲まれていることから、台風による強風や大雨などの自然災害は比較的少なくなっています。

#### ◆ 環境・景観 ～優れた地域資源に恵まれています。～

- ・ 松本地域は、上高地・乗鞍高原・美ヶ原高原に代表される豊かな自然、山岳や高原から流れ出る豊富な清流・湧水や地下水、国宝松本城・奈良井宿などの貴重な歴史的文化遺産、北アルプスを背景に広がる安曇野の田園風景・わさび田・屋敷林などの美しい農村景観など恵まれた地域資源を有しています。



- ・ これらは全国的にも著名な観光地として、国内外から多くの人々が訪れています。なお、平成23年の松本地域の観光地利用者数は1,109万人となっており、県全体では東日本大震災の影響などにより減少しているものの、松本地域においては連続テレビ小説「おひさま」等の放映による誘客効果もあり、前年に比べて120万人増加（112.1%）しています。

#### ◆ 交通 ～県内交通の要衝となっています。～

- ・ 松本地域は、3大都市圏のいずれからも比較的近距离であるという地理的な好条件を有しています。
- ・ 福岡・札幌便が開設されている県内唯一の空の玄関口である信州まつもと空港を有するとともに、中央本線・篠ノ井線・大糸線の3本のJR線、アルピコ交通上高地線、国道19号・20号などの8本の国道、長野自動車道等によって管内の交通網は県内外各地に延びており、県内交通の要衝となっています。

#### ◆ 医療・福祉

～水準の高い医療サービスや地域の実情に応じた福祉サービスが提供されています～

- ・ 信州大学医学部附属病院を始め、長野県立こども病院など高度な専門性の高い病院が多く、人口10万人当たりの数が県平均を上回る医療機関や医療従事者が地域医療を支えています。
- ・ 高齢化率は県平均を下回っているものの、郡部に高い地域があります。一人当たりの介護保険給付費や老人医療費は県平均を上回っており、特養待機者数も高い数値を示しています。
- ・ 障害者数は増加傾向にあり、障害者が地域生活を送るために必要な環境整備や相談支援体制の整備が進められています。

◆ 産 業 ～多様な産業が地域を支えています。～

- ・ 電子・電気・情報など県内有数の生産規模を誇る産業集積を有しています。なお、平成22年の製造品出荷額等の全県に占める割合は33.2%で10広域圏別で1位となっています。
- ・ 主要農畜産物（レタス、スイカ、りんご、長芋、米など）は全国屈指の産地であり、ブランド品として全国的にも定着しています。また、平成22年の農業産出額は約460億円で県内トップクラスとなっています。
- ・ 松本地域の森林はカラマツ・アカマツの割合が高く、その利活用に向けて研究開発などの取組が進められています。また、世界的な木材需給動態の変化や県内の森林資源の充実等を背景に、素材生産量に増加の兆しが見られます。

◆ 教育、文化・スポーツ ～住民の快適で文化的な生活を支えています。～

特に市部を中心に、多くの教育機関、文化・スポーツ施設が集積しています。これらは地域住民の快適で文化的な生活を支える基盤となっており、経済活動や地域振興の拠点としての役割も担っています。

【教育機関】

信州大学、松本歯科大学、松本大学など教育機関が集積しています。多様な人々が地域内外から集い、若者らの交流人口の拡大に寄与しているとともに、地域に多くの人材を輩出しているほか、学生らによる地域活動への取組も見られます。

また、松本地域には体育センター、総合教育センター及び生涯学習推進センターなど教育関係の県機関が多くあることも特長の一つです。

【文化・スポーツ施設】

松本文化会館、松本平広域公園などの文化・スポーツ施設が集積しています。これらの施設等を活用した活動が盛んであり、サイトウ・キネン・フェスティバル、松本山雅FCなどをきっかけとした新たな文化・スポーツイベントも地域に根付いています。



### 3 松本地域の課題

わが国では少子高齢化の急速な進行により、将来にわたる人口増加が難しい状況にあります。

松本地域の高齢化率は、平成24年4月1日現在25.1%（県全体27.1%）で、最近10年間で4.7ポイント上昇していることから、松本地域においても急速に進む高齢化の様子が窺えます。

今後、長期的には松本地域のすべての市村において人口が減少し、平成42年には39万人弱程度になることが見込まれ、平成22年からの20年間で約4.2万人、9.7%減少することとなります。

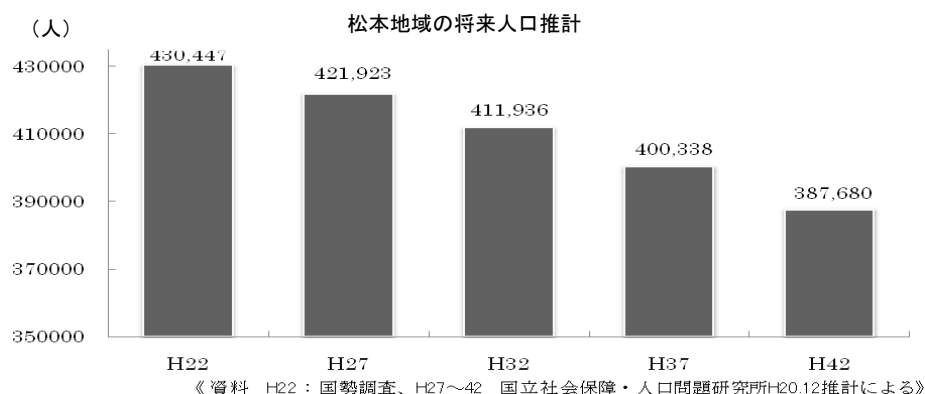
この率は県平均の減少率を3.9ポイント下回るものの、全国的な人口減少時代の本格的な到来を迎え、松本地域においても人口の減少は避けては通れない状況にあるといえます。（国立社会保障・人口問題研究所 平成20年12月推計）

少子高齢化や若者の流出などに起因する人口減少に伴い、労働力や消費の減少による経済活動の停滞、次世代の担い手不足、地域の伝統や文化の継承の問題など、様々な影響が地域社会へ波及し、地域活力の低下が懸念されるどころです。

特に、村部を中心とした中山間地域の一部では、急激な高齢化・人口減少の進行による遊休農地の増加に加え、野生鳥獣による農林業被害等により、農林業生産活動が停滞し、集落機能の維持が困難になるなど、地域社会の基盤を揺るがす様々な影響が懸念されるどころです。農林業の持続性を活かすことにより、これら中山間地域が持つ食料や木材の供給、水源の涵養、国土の保全など、多面的機能を維持し、継承していくことが大きな課題となっています。

また、高齢化の進展に伴って高齢単身世帯などが増加することにより、今まで以上に社会全体で高齢者を支えていくことが必要となっており、医療、福祉サービスの充実のほか、バスや鉄道などの公共交通の確保など高齢者の生活を支えるための取組が益々重要になってきているとともに、人と人が支え合う地域コミュニティの重要性が一層高まってきています。

こうした人口減少・少子高齢化社会を見据え、地域社会を守り続けていくために、移住・交流人口の増加、定住の促進に努めるとともに、豊かな自然、良好な生活環境、都市圏から比較的近距离にあるという地理的な好条件と県内外へ延びる交通網など松本地域の特性を最大限発揮しながら、環境、産業、福祉、教育、防災、地域づくり、交通など様々な分野における課題を解決し、持続可能な活力のある地域社会の実現を目指していくことが求められています。



(※ 個別の地域課題については、「5 取組の方向性(基本施策)」に記載しています。)

## 4 松本地域の目標

以上のような特性や課題を踏まえ、地域の目標を次のとおりとします。

行きたい、住みたい、暮らし続けたい

松本地域を目指して

人口減少・高齢化が進行することが見込まれる中で、今後とも、松本地域の活力を維持・拡大していくために、交流人口の増加、移住者の確保に努めるなど、松本地域に「行きたい」、「住みたい」と感じる多くの人が集う活気と賑わいに満ちた地域を目指します。



そして、経済・文化の拠点や産業が集積する都市部、豊かな自然に囲まれた農村部、これら双方の魅力兼ね備えた松本地域の特性を最大限に活かし、活力あふれる産業や良好な生活環境の下、誰もが安全・安心にいつまでも「暮らし続けたい」と感じられる地域を目指します。

